

平成27年度第2回京丹波町総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 平成28年2月23日（火）
開会：午後2時 閉会：午後4時16分
- 2 開催場所 京丹波町役場議場
- 3 構成員出席者 7名
寺尾豊爾町長 松本和久教育長 大西弘二教育長職務代理者 櫻井博規委員
藤本英子委員 藤田道子委員 竹吉美公委員
- 4 事務局出席者 6名
中尾総務課長 大西社会教育課長 徳島学校教育課課長補佐
豊嶋総務課課長補佐 石田総務課係長 井口総務課主査

5 傍聴者 なし

6 会議の概要

（開会：午後2時）

○開会

寺尾町長挨拶

松本教育長挨拶

○協議事項

(1) 京都府の教育振興プランについて

・京都府の教育振興プランについて、教育長より説明。

【事務局】京都府の教育振興プランについて説明いたしました。説明しました内容についてご質問・ご意見等がございましたら、よろしくお願ひします。

【委員】資料の中にあつた特に困難な状況におかれた子どもとは、経済的に困難な環境にある子どものことか。

【教育長】前回も同様の表現があることから、学力状況、友達との環境も含むもっと幅広い意味の困難と思われる。困難な状況という表現がより重みのある言葉になつたと感じる。南丹管内の会議において、学力調査と併せて行った意識調査の中に、学力及び経済的に困難な状況にいる子どもの状況調査があり、その結果の報告があつた。その生活実態が、スマホやゲームでよく遊び、親の手がかけられておらず、学習時間が少ない状

況にあるということは想定内であったが、意外な点として、自分の将来をなんとかしたいという願いが強いことが分かった。教育を通じて子どもの可能性をいかに引き出すかが大切だと感じた。

【委員】 自然豊かで、子育て支援が手厚い京丹波町でも、安心して子どもを育てられていない事案がある。周りのサポートをどうするかを考える必要がある。就学時に到達するまでの子どもにも注視していく必要がある。産まれた時点から経済的に不安定である場合は、親の精神状態も不安定となる。町全体で、学力以前の問題にも目を向けていけないといけない。

(2) 京丹波町の教育の現状について

・京丹波町の教育の現状(京丹波町における小・中学校の児童・生徒数の推移)について、事務局より説明。

【事務局】 京丹波町の教育の現状ということで、主に小・中学校の児童・生徒数について説明いたしました。説明しました内容についてご質問・ご意見等がございましたら、よろしく申し上げます。

【委員】 28年度のひかり小学校1年生は、2クラスとなるのか。

【教育長】 35人以上で2クラスとなるので、ひかり小学校1年生は2クラスとなる。このままいくと2年生は34人のため、2年生のみ1クラスになる。

【委員】 京丹波町において将来的に生徒数の推移がどうなるのか気になる。子どもの数の減少率も上がっており、深刻に受け止めている。

【事務局】 次回定例会で資料をお渡しできるようにいたします。

【委員】 来年度の1年生から3年生までが263人ということは、その子達が中学に入る時には、来年度の予定している中学生の人数より、90人減ることになる。どんどん生徒数が減っていく大変な状況にある。

(3) 京丹波町教育委員会の取り組み等について

・京丹波町教育委員会の取り組み等(平成28年度の新規教育振興事業案)について、教育長より説明。

・京丹波町教育委員会の取り組み等(就学援助費の状況)について、事務局より説明。

【事務局】 京丹波町教育委員会の取り組み等について説明いたしました。説明しました内容でご質問・ご意見等がございましたら、よろしく申し上げます。

【委員】 継続事業もあるので、一概に言えないと思うが、来年度の事業における実践指定校が、和知の学校に偏っていると思うが。

【教育長】 すべての小中学校が実践指定校となっており、今回挙がっていない学校においても特色ある学校づくりの計画を進めている。森に関する教育など特に町において今年度重点項目としている事業の対象学校が和知に多いということである。最終的には、

各学校から研究項目が挙がってくることから、来年度各学校がどんな取り組みをするか整理できる。

【委員】就学援助の認定後、何年後かに規則第9条に基づき調査を行い、認定を取り消すことがあるのか。

【事務局】申請に基づく認定は1年ごとに行っています。その1年の中で家庭の状況に変更等がなければ、支給をしています。変更があった場合は、取り消しの対応をする場合もあるということでございます。

【委員】就学援助の申請時に、民生委員に意見書を求めているが、プライバシー保護の観点もあり、以前のように生活状況が分からないことも多い中、意見書を書いてもらうのは、民生委員の負担が大きいのではないかと。過去がそうだったから、同じようにするのはではなく、状況に応じて考えていかないといけないのではないかと。

【事務局】地域との関わりも変化している中で、民生委員に負担がかかっている状況は認識しています。申請に対しての判断材料のひとつとして、家庭の状況を第三者の立場からご意見をいただくことは大きな意味があると考えています。今後の検討課題ではありますが、現状としては引き続きお世話になりたいと考えているところです。

【委員】京都トレーニングセンターを活用した体力・競技力の向上は素晴らしいことであるが、過度な運動が子どもに与える影響も心配である。トレーナーを配置するなど、無理な運動を求めることにならないよう配慮してもらいたい。

【教育長】総合的な立場のコーディネーターを筆頭に、トレーナー、医師、ボディケア専門家、食の専門家がチームを組む体制となると聞いている。合理的かつ科学的な観点から子どもを指導する体制を構築されるようなので、きめ細かいトレーニングを期待したい。

【町長】児童数が減ったから、即学校統合をするとは考えていない。少人数を特色にするのもよいのではないかと。具体的にいうと、竹野小学校の児童数は少ないが、魅力を感じてもらい、通いたいと思ってもらえればよい。児童数を気にせず、それを活かし、教育をいかによくするかという視点を持ってほしい。自然にふれることで、生きる術や危機管理を実に付けることができる。昔は、学校教育の中に自然教育があった。限られたカリキュラムの中だが、自然豊かな京丹波町であるので、学校の先生には自然と親しむ教育に取り組んでもらえたら、より情緒豊かな人間になるのでは。

【教育長】少子化についての基本的な考え方は、町長と同じである。国においても、従来は少子化になれば学校統合をし、魅力ある学校にするという考えだった。新たに今は地方創生の観点から、小規模校を存続させるために教育環境を充実させる国の事業もあり、その取り組みがうまくいっているところもある。中には休校している学校を再開させる事業もある。従来は統合一辺倒で進んでいたが、それだけでよいのか考える時期が来ているのではないかと。統合しても過疎が進んだ事例もある。学校を残すことが地域をも活かすことになるのではという逆転の発想で、小規模校を活かす方法もあるのでは

ないか。

【町長】小規模校を活かすのがよいのではないか。

【教育長】地域もその思いがあるようなので、竹野小学校の取り組みからよい方向性が見つかればよい。

(4) 京丹波町の教育について（意見交換）

・京丹波町の教育（京丹波町いじめ防止のための子ども意見発表会、平成27年度京丹波町いじめ防止対策推進委員会での主な意見、平成27年度いじめ調査の状況）について、教育長より説明。

【事務局】京丹波町のいじめの現状について説明いたしました。最後の協議事項となり、意見交換の場ともさせていただいております。教育委員会部局と町長部局が協力し、京丹波町の教育に取り組むというのが本会議の趣旨でもございますので、忌憚のないご意見等をいただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

【委員】町長から子どもの数が減っているがそんなに気にしていないとの発言があったが、竹野小学校校区の人口分布や和知小学校・中学校の児童生徒の推移を見ると減少が際立っており、町としても一定問題視していると思われる。以前教員を減らすよう圧力がかかっていると聞いたが、実際具体的な数値が出ているのか。京丹波町で教員が減らされたなど影響はあるのか。

【教育長】予算の削減が求められたが、影響の少ない範囲で次年度の教員体制が組めるよう折衝中である。財務省としては、少子化になれば、学級数も減り教員も減るとというのが基本的な考え方であることから、今後も厳しい対応になると思われる。子どもの数の減少をどう考えるかは、教育委員会で検討すべき課題であるが、個人的には、28年度に地域と連携した学校教育推進事業を盛り込んだのは、調査研究を行うという意図がある。近接する小学校と中学校がより緊密な連携の元に学校教育を進める推進事業の実践指定校にもなっている。近隣市町でもそういう小学校中学校のあり方を模索し実施しているところもある。最終的には、地域住民がなにを望ましいとしているのかで決める必要があるが、調査研究活動を通じて様々な方法を示した上で、しかるべき時期に結論を出すことになるのではないかと考える。

【委員】いじめの問題がニュースでも取り上げられており、昔からいじめはあるが、なかなか無くならない。学校において、スマホの使い方やネットいじめの怖さについて、生徒や親に対して講演があったが、いじめは無くならない問題である。京丹波町では、社会教育委員やPTAによるあいさつ運動があり、第三者の立場から、子どもを見守る環境があるのはありがたい。須知商店街に防犯カメラが設置されたことも、通学の状況を確認できる機会となりよいことだ。町全体が、老若男女関係なく一人一人安心して過ごせる場であればよい。

【委員】教育にはお金がかかるのが当たり前という考えを持ってもらうことを望む。複

式学級を解消するために統合するという考えはいかがなものか。子どもたちにどんな力をつけさせる教育ができるかが大切である。地域の人たちと十分に話しあう中で方向を決めるべきである。昨年度は町独自に学校に対して様々な施策を実施してもらった。他市町村に比べて、学校設備も充実している。子どもの学習支援をしていく施策は、今後も続けて欲しい。

【教育長】少子化は議会でも焦点となるだろう。町長からあったように、地域にとって、子どもにとって望ましい、また、行きたいと思われる学校を作れるとよい。

【委員】竹野小学校校区の人口分布を見ると0歳、2歳の人口は各1人しかいない現状である。親が越境通学させる可能性がある。竹野小学校に通わせたいと思う学校を作らないといけない。

【町長】いじめの調査について議会でも報告があった。詳細な数値が公に出ないと聞く中で、誇りに思う。スポーツを指導する中で、例えば親が認めたとしても手をあげることは、京丹波町では認めない。家庭内でも、親が手をあげることは許さない。親が子どもを叩く環境にあれば、子どもも同じように叩くようになるのではないか。いじめの状況について、子どもの感じたままの声を届けてもらうことが大切である。学校の統合やいじめについても、声なき声に耳をすませることが必要である。このことは職員にも常に言っていることである。

【委員】中学校の男子の運動能力テストの数値が落ちているが、バス通学の影響なのか。京都府トレーニングセンターにはジュニアの育成があるということで、夢がありうれしい。グローバル化に関連して、東京オリンピックの海外チームの事前合宿誘致活動が事業としてあるが、どの国にというのがあるのか。ホッケーを強化していくとのことだが、室内でプレーできるのか。ホッケーを通じた海外交流はどのようなのか。

【町長】ホッケーの練習は室内でも行うが、試合は室外となる。姉妹都市であるニュージーランド・オーストラリアがホッケーに強いことから、交流を考えている。

【教育長】中学生の男子だけ運動テストの結果が下がっているので、分析が必要である。

【委員】小柄な子が多いことやクラスの人数が少ないことが影響したのではないか。

【委員】スポーツテストに全力で取り組んだのかという疑問もある。学年の雰囲気や思春期の年代であることも影響を与えた可能性がある。

【教育長】各学校に原因を分析するよう指示している。体格は変わっていないので、体力だけ落ちることは想定しにくい。

【委員】いじめ調査の中で、中学生の報告件数は少ないが、この年代は思春期に入っており、親にも相談しないことがある。報告件数が少ないからと安心してはいけないのではないか。周囲が子どもを見守る環境を作っていくことが必要である。

【町長】他市町村の報告より報告件数も多く、より正確な数値に近いと思うが、件数が少ないから安心できないというご指摘は共有したい。

【委員】いじめ調査の結果はホームページにも公表されており、0という結果に疑問を

持つ親もいる。学校も0だからと安心してもらっては困る。子どもの受け取り方によっても違うこともあり、数字で表せない部分があるので難しい。

【教育長】いじめの認知件数なので、設問の意味を説明した上で、子どもから回答があったものはすべて件数として報告対象としている。教師が子どもをしっかり見つめれば、なにか問題があれば分かるはずである。

【町 長】教師がしっかりとした意思を持って、子どもを見ないといけない。

○閉会

大西弘二職務代理者挨拶

〈閉会：午後4時16分〉

会議の経過及びその結果を明確にするためにこの議事録を作成し、町長及び教育委員会が署名する。

■ 町長 _____

■ 教育長 _____

■ 教育長職務代理者 _____

■ 委員 _____

■ 委員 _____

■ 委員 _____

■ 委員 _____